慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.5 (1960. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600501--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1960年　5月号

論　説

古ハワイにおける土地制度の変遷……野村兼太郎　1
イギリスにおける社会民主主義の形成過程(その二)…飯田　鼎　7
——帝国主義の時期における
イギリス労働運動と労働代表委員会——

資　料

最適投資の計画……原　豊　29
——フランス電力の場合——

書　評

田中惣五郎著『北一輝——日本的ファシストの象徴』
……飯田　鼎　43
チェックランド『発展と進歩』……渡辺国広　49
『講座　社会保障 2 日本経済と社会保障』……庭田範秋　52
国崎裕著『生命保険』……庭田範秋　56
S. バラバニス『計量経済学』……西川俊作　62
R. ヌルクセ著『貿易と発展の諸形態』……大西　昭　66
ションフィールド著『戦後英国の経済政策』……丸尾直美　72

新刊紹介

53巻 5 号

昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可
昭和二十六年二月十三日国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和三十五年五月十一日発行（毎月一日発行）

三田学会雜誌

昭和三十五年四月号

定価　金九〇円（八送料）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 53, No. 4　April, 1960

CONTENTS

Agricultural Crisis and Establishment of Monopoly Capitalism.
On the Conditions of Recovery from "Agrarian Crisis in the Last Years of the 19th Century" and the Character of Economic Crises in the Early Years of the 20th Century
page
…… *M. Tokiwa* 1

On the Theory of the Relative Surplus-population by K. Marx…… *K. Imura* 38

Current Problems of Demand Forecast in Japan
…… *T. Sato* 68

Survey of Academic Circles

Book Reviews

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to bo sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai.
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan
Price 90 yen

新刊紹介

増淵龍夫著『中国古代の社会と国家』……平野絢子 78
——秦漢帝国成立過程の社会史的研究——

安永武巳著
『消費経済学，日本の消費構造と需要予測』……佐藤保 78

『社会経済史大系』……寺尾誠 79

気賀健三著『ソビエト経済の研究』……丸尾直美 80

エウジェニオ・ガレン著
清水純一訳
『イタリアのヒューマニズム』……渡辺和一郎 81
——ルネサンスにおける哲学と市民生活——

古ハワイにおける土地制度の変遷

野村兼太郎

一

古ハワイに関しては、すでに「ポリネシア人のハワイ移住について」（「三田学会雑誌」第五十巻記念論文集所載）、「古ハワイにおける社会階級の発展」（「社会経済史学」第二十三巻第五・六号所載）、及び「古ハワイにおける漁業」（「三田学会雑誌」第五十一巻第十二号所載）の三篇を公にしたが、それらは本論文の土地制度と密接な関係があるから参照して欲しい。

私が特に古ハワイの社会経済生活に興味を感じたのは、彼らが日本民族の祖先と同様に、その時期においてはかなり隔ってはいるが、共に火山列島に移住し、恐らくその以前にはある程度の文化をもっていたと思われるが、いずれも漁撈を中心とする新しい社会生活を営まざるを得なかったことにある。日本の場合は支那大陸に近接していたため、早くからそれらの文化の影響を受けて、古い形態は亡びてしまったが、ハワイの場合には殆んど孤立していたし、又近辺に進んだ文化を有する民族が存在していなかったから、古い形態があまり著しい変化を受けずに残存していたと考えてよかろう。

漁撈を主とした民族、あるいは漁撈を主たる生業とせざるを得なかった民族が土地に対してどういう観念をもったか、又その土地占有の形態がどうであったか、それらは農牧を生業とした民族とは確かに違ったものがあったに違いない。もちろん漁撈を主としたとしても大部分はその住居の根拠地は土地に求めなければならない。時にわが国の家船——海人族の一部のように、水上生活を行なっている者もあるが、その場合でもその船舶の材料はこれを海上から得ることは出来ない。当然陸地と密接な関係を生ずる。もちろんそれらの木材が空気のように無限に存在するならば、一定の土地に関する慣行や制度は起らないかも知れない。しかし船舶に適する木材は決してどこでも得られるわけではない。ハワイにおけるカヌー製作の幾多の伝説はこれを証するものである。要するに漁撈民族にとって、土地は漁撈をする上に必要な根拠地として、又漁撈及び日常生活に